

H.28
(2016年)

九月（今月の掲示板）

真宗大谷派・願成寺

闇（苦惱）に泣いた者に、光に遇った笑いがある

彼岸とは『到彼岸』のことで、この世（娑婆＝苦惱に耐え忍ぶ人間界）を離れ・仏様の世界に到る（淨土往生＝覚ること）を言います。仏教では、『思い通りにならない苦から離脱し・仏と同じ覚りの智慧を得て（到彼岸）・苦惱を解決する』ことを勧めます。

阿弥陀仏から後光が射し・光が射せば闇（苦惱）は破られ明るくなります。そして、法（真理）に闇く自己中心に生きる自分の本性が明らかに見え、「真理に背いて生きている罪」への反省・懺悔が起ころうです。南無阿弥陀仏は、①必ず覚らせると、常に私の背中を押して下さる言葉。②仏の力に頼れ・絶対に従えの命令。③『阿弥陀仏に南無する（尊敬しつらう）者として生きます』の意味があります。赤ん坊は、お乳を腹一杯飲み・おシメも変えると煩惱が満たされて泣き止み・ほほ笑み、純真無垢（心の汚れが無く清らか）な仏様のような姿になります。

主な参考資料

(1) 池田勇緒(著)『真宗入門－「念佛」とは①』、月刊・同朋－2014年5月号、p.27～29(東本願寺出版部)。

(2) 田中治郎(著)『浄迦の教えが面白いほど分かる本』、中経出版、p.65～95(2005年)。

(3) 延塚知道(著)『教行信証』の世界②、「月刊・同朋」2016年8月号、p.28～31(東本願寺出版部)。